

第 3 章 長岡京市の教育が目指す姿

1 基本理念

本市は、長岡京が所在したという稀有な歴史と、西山の緑・水、歴史・文化、良好なまち並みなどの“うるおい資源”があり、人々のあたたかい心、多様な学びが私たちの生活に豊かさをもたらしています。

その恵まれた資源を有機的に関連付けることで、学校教育、社会教育という枠組みを超えて、学校・家庭・地域の連携・協働による教育の充実・向上(循環)を目指します。

そこで、本市の第2期教育振興基本計画においては、本市教育の基本理念を「心のふれあいを大切に 生きる力をはぐくむ 明日の長岡京を創る しなやかな人づくり」と決めました。

基本理念

心のふれあいを大切に 生きる力をはぐくむ
明日の長岡京を創る しなやかな人づくり

「心のふれあいを大切に」は、多様な人々と関わりながら、自分の長所に気付き、自己肯定感を高めるとともに、互いの考え方を尊重し、共に学び合うことを示しています。

「生きる力をはぐくむ」は、変化が激しく複雑で予測困難な時代に、一人一人が生涯を通して主体的に学び、判断する力を身に付けるとともに、学んだことを生かして、自分の可能性を広げながら成長していくことを示しています。

本市では、これまでの地域の特性を生かした特色ある教育の姿勢を継承するとともに、子どもから大人まで、様々な人々との交流を通じて、自分自身や自分の暮らす地域に誇りを持ち、他者と協働・協力しながら明日の長岡京（新たな未来）を創ることができる、激動の時代を生き抜くしなやかさ(※)を備えた「人」の育成を目指します。

そして、その「しなやかな人」達が、自分の持つ強みを生かして、世界のあらゆる場で羽ばたき、時代を切り拓いていくことを願っています。

※本計画における「しなやかさ」とは

人に寄り添う協調性、折れない強さ、型にとらわれない柔軟性を含めた、しなやかに成長する強さを示しています。

2 目指す人間像

基本理念で示した「明日の長岡京を創るしなやかな人」から導かれる、目指す人間像(本市の教育が目指す市民の姿)として、次の3つの人間像を示します。

これらの人間像は、国や府の教育振興基本計画の方向性と、アンケート調査で把握した、市民が教育に求める想いを踏まえ、変化し続ける社会において、一人一人が幸せな人生を送るため、長岡京市の教育が目指す市民の姿を明確にしたものです。

思いやりがあり、互いの違いを認め合い助け合える人

人々が社会の中で、共生しながら心豊かに暮らしていくためには、人には多様な個性があることを理解し、互いを尊重する人間性を育むことが求められています。

そのために、自分の命や人生を大切にし、社会の一員として他者の存在や個性を大切にする、思いやりがあり、互いの違いを認め合い助け合える人の育成を目指します。

何事にも前向きに挑戦して未来を拓く人

予測が困難な時代において、未来を拓いていくためには、新たなことや困難なことに前向きに挑戦するチャレンジ精神を育むことが必要です。

そのために、自ら進んで、他の人々を巻き込み協力しながら、様々な問題に、何事にも前向きに挑戦する、未来を拓く人の育成を目指します。

幅広い視野と柔軟な思考力を持つ人

変化の激しい時代においては、社会の変化に対応できる幅広い知識や柔軟な思考力が求められます。

そのために、基礎的な知識・技能に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力など、幅広い視野と柔軟な思考力を持つ人の育成を目指します。

[基本理念]

心のふれあいを大切に 生きる力をはぐくむ
明日の長岡京を創る しなやかな人づくり



思いやりがあり、
互いの違いを認め合い
助け合える人



何事にも前向きに
挑戦して未来を拓く人



幅広い視野と
柔軟な思考力を持つ人

3 基本目標

本市の教育の“基本理念”と“目指す人間像”の実現に向けて、4つの基本目標を定めます。

基本目標1 子どもたちの「生きる力」の育成

「確かな学力※」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育てるとともに、変化の激しい社会に対応しながら自己を実現し、しなやかに生きていくため、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、問題を解決する資質や能力の育成等を推進します。

また、他者への理解や思いやり、協調性、感情をコントロールできる自制心等の他者とともに生きていく力を育成するとともに、他者との関わりの中で「自己肯定感」を高めていきます。そして、グローバル化する社会の中で、自身や自身の文化に誇りを持ち、他の文化や他のルーツを持つ人々と理解しながら、ともに新たな価値を創造し、明日を創る力を育成します。

さらに、子どもたち一人一人の興味・関心等に応じて、学びを深められる機会の提供や、生活や学びにわたる課題の早期発見等子どもたちの能力や可能性を最大限に伸ばし、児童生徒の個々の特徴に応じた、切れ目ない指導・支援を行い、一人一人を大切にする教育を推進します。

基本目標2 持続可能な教育施策推進のための環境整備

明日の長岡京を創る子どもたちが魅力ある空間で学び、安全・安心に生活できるよう、時代の変化に対応できる長期的な視点を持った施設・設備等の計画的な整備を行います。

また、優れた外部人材の積極的な活用を図り、開かれた学校づくりを進めるとともに、学校経営改革として、学校における組織体制や教職員の働き方を見直し、教職員の資質や指導力の向上に努め、教職員が子どもたち一人一人と向き合う時間を確保し、教育の質の向上につなげます。

基本目標3 生涯を通じた、多様な学びによる豊かな人づくり、地域づくり

人生100年時代の到来を踏まえ、生涯にわたって学び、豊かな人生を送るため、多様な学習機会や文化・スポーツ活動等に参加する機会や環境の充実に取り組みます。

また、学習機会の充実に図る中で、長岡京をはじめとする本市の貴重な文化財の保存と活用に努めるとともに、人づくりの土台となる市民の郷土への誇りやふるさと意識の高揚につなげます。

さらに、市民一人一人が多様性への理解を深め、学びの循環を通して市民同士がつながり、学習の成果を地域に還元することで、豊かな地域づくりにつなげます。

基本目標4 子どもを中心につながる地域の学びの場の推進

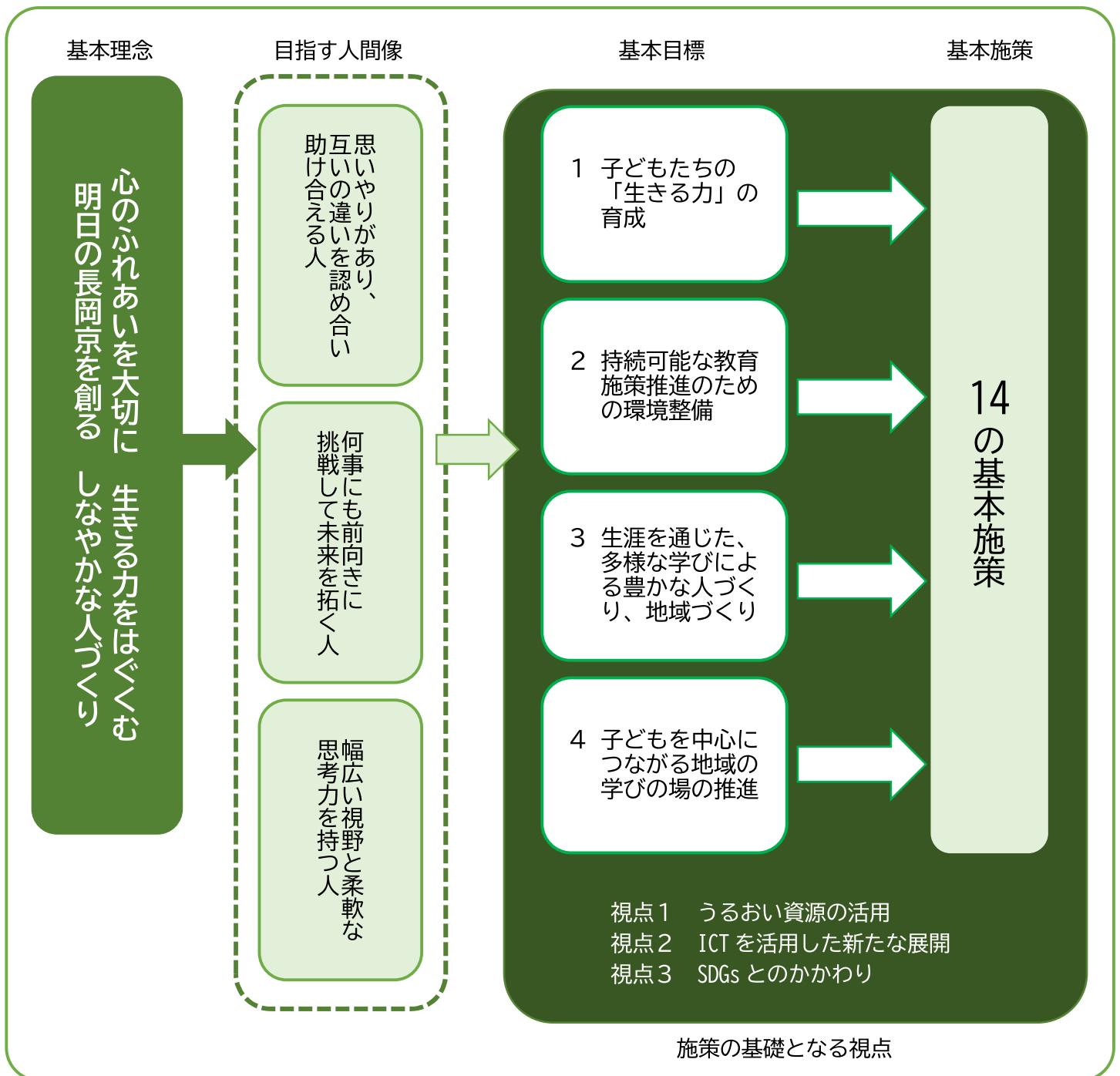
子どもが豊かな人間性を育み、自立した社会の一員へと成長するため、学校・家庭・地域の連携・協働による教育の充実に向けた取り組みを行います。

地域の人々の学校教育活動への協力や、児童生徒の地域活動への参加など、本市の豊かな学習資源や地域人材を活用し、子どもを中心に学校・家庭・地域の活動のつながりを深めることで、子どもたちの学びや成長につなげるとともに、地域全体の活性化につなげます。

4 施策の基礎となる視点

“基本理念”と“目指す人間像”の実現に向けて、4つの“基本目標”に基づき教育施策を展開するに当たり、今後基礎として踏まえるべき、全ての分野に共通する重要な視点として次の3つの視点を定めます。

本市では、「うるおい資源の活用」「ICTを活用した新たな展開」「SDGs との関わり」を施策の基礎となる視点として、常に意識することで、総合的かつ計画的に教育施策を実行していきます。



視点1 うるおい資源の活用

長岡京市が有する、「うるおい」資源(西山の緑・水、歴史・文化など)に子どもや大人が触れることは、地域の魅力に気付くきっかけとなります。そして、地域について改めて考えることによって、地域への愛着を感じるなどの地元愛の醸成につながります。その想いを行動に移すことで、人と人とのつながりが生まれ、自身が地域に包み込まれているという安心感が、人生における心の豊かさをもたらします。

このような「うるおい」資源の活用により、長岡京らしい教育を効果的に展開する中で、地域を愛する人達、そして、新たなまちの活力を創り出す人材を育むとともに、まちを築立った後もその力をまちに還元することができる仕組みづくりを進めていきます。

視点2 ICTを活用した新たな展開

「超スマート社会(Society5.0)」の到来が予測されるなか、さまざまな分野でICTの活用が始まっています。ICTの活用は、学校や社会教育施設の利便性の向上や、ライフステージやライフスタイルに応じて多様化する学習ニーズに応じた学びにつながります。

このように、新しい時代の学びにおいて重要な基盤となるICT環境の整備やICTを活用した学習活動をさらに推進することで、時代に応じた多様な学びにつなげます。

視点3 SDGsとの関わり

平成27年(2015年)9月の国連サミットでは、2030年を期限とする持続可能な開発目標(SDGs)が採択されており、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、社会のあらゆる主体が目標に向けて、積極的な役割を果たすことが期待されています。

本市においては、第4次長岡京市総合計画でSDGsに掲げる持続可能なまちづくりを進めています。本計画では、SDGsの17のゴール(目標)のうち、主に「4.質の高い教育をみんなに」の達成に貢献することを目指します。また、多面的に関連する複数の目標も意識しながら、すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を提供するとともに、生涯学習の機会を促進していきます。

5 新たな教育の循環

本市では、今後10年間、目指すべき方向として定めた“基本理念”、“目指す人間像”の実現に向けて取り組んでいきます。

具体的には、4つの“基本目標”達成に向けて、“施策の基礎となる視点”を踏まえてつくられた各種教育施策を実行することにより、本市における教育の質の向上と充実を計画的に進めていきます。

そして、その教育施策群のより効果的かつ円滑な推進を図る中で、本市にとって「教育の循環」は欠かすことのできないものです。

本市は、これまで大切にしてきた「教育の循環」とともに、さらに、まちが人をはぐくみ、人がまちをつくる循環とすることを目指すため、循環する学び(ふれあい、互いに影響し合う学び)の提供、まち全体に広がる学びを生み出す、学びが広がる(活動とまちがつながる)仕組みづくり、学校、家庭、地域の連携・協働のさらなる推進に取り組めます。

新たな教育の循環～まちが人をはぐくみ、人がまちをつくる循環～

大人も子どもも、人や社会とのかかわりの中で、学び、成長していきます。

大人から大人へ、子どもから子どもへ、大人から子どもへ、子どもから大人へと、ふれあいや学び合いを通じた様々な学びが生まれ、学校、家庭、地域の結び付きにより、それぞれの場所での学びが相互に関係し、循環していくことで、学びがより深いものへとなっていきます。

そして、学びの成果がまち全体へと広がっていくことは、まちの活力をつくりだし、学びの環境づくりの充実へとつながるとともに、その学びが学校・家庭・地域に還元されることで、人が育まれていきます。

「新たな教育の循環」は、施策を推進するための方策であり、同時に本市における学びの充実と向上のために目指すべきものとして、その確立を進めていきます。

～まちが人をはぐくみ、人がまちをつくる環境～

まち全体に広がる学び

子どもから大人へ

子どもたちとともに大人も成長し、ふれあいにより、豊かな心を培う

循環する学び

学校



大人から子どもへ

子どもたちの成長を見守るとともに、地域への誇りや愛着を育む

連携・協働



家庭



地域

子どもから子どもへ

思いやりの心を育み、一生の財産となる友人とのつながりをつくる

大人から大人へ

学び続ける中で、人とつながり、学んだ知識を自分のため地域のために生かす

教育委員会
(行政)

- ・学校、家庭、地域のコーディネートにより連携・協働推進
- ・学びの成果を生かしたまちづくり